22 21 20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	l
<ul><li>進然述『法華経大意』の真偽問題 松天台開会思想と本化地湧菩薩との関連②――応生眷属の利益―― 山ー―安然・仁空の思想を中心に―― 土台密における円密一致思想・「伝法聖者闕略」について</li></ul>	「本地難思境智」解釈の変遷 布	『法華玄義釈籤』の成立過程に関する一考察 池	『天台諸文類集』から見た宋代天台教学の諸課題 林	『法華文句』における四種釈について 菅	-	曇鸞の「是心作佛是心是佛」釈──仏の三業荘厳功徳釈との関連について── ・・・・・・ 吉	-	『蓮宗宝鑑』における唯心念仏思想 張	基の弥陀身土観――『大乗法苑義林章』「三身義林」を中心として―― 林	吉蔵の西方浄土往生論――無量寿観と無所得人懺悔―― 伊	『往生論註』所説の二身論と『大智度論』第二十九巻所説の二身論について 曽	中国仏教における「感応」と「感通」 諏	慧思の法華三昧前方便の考察	漢訳経典における gāthā の訳語とその変遷――絶・縛束・偈・伽他―― 齊	本覚思想と如来蔵思想 花	『菩薩瓔珞本業経』の諸本について敦煌写本 S.3460 を中心に 藤	釈尊の悟りには展開があった 前	小品系般若経の仏陀観の基調	初期ジャイナ教における僧・尼僧の宿泊所 奥
森内倉	施			野	田	水	ЛТ			東	根	訪	田	藤	野	谷	田	崎	田
秀 寛				博		岳	琢		香	昌	宣	隆	大	隆	充	昌	惠	裕	清
幸久宏																			
	:	:	i	i	:		:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	:	
五一号	ŏ	व्य	穴	艽	퐀	=	八	यिष	Õ	天	=	壬	三	七		£.	_		

目

次

45 44 43 42 41 40	39 38 37 36	35 34 33 32 3	31 30 29 28 27 26 25 24 23
ソハルト――その思想的親近性について――		凹 の記述をめぐって――・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	『禅宗六祖慧能大師頂相東来縁起』の問題点
和松関石川三伊			鄭呂西武廣中石山柏
田岡戸島口明東	<sup>円</sup> 口 野 未	川川嶋田ま	岡藤田島井口倉
真幹堯尚恵智恵	来恭玄	定ゆ昭康多	榮 斯 秀 明 宗 志 修 弘 明
			植微爾範玄郎道江裕
<b>三</b> 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三 三	一一一 - - - - - - - - - - - - - - - - - -	二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二二	至五五三三二三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三三

61	60	59 5	58	57	56							55	54	53	52	51	50	49	48	47	46
Pramāāavārttikālamkāra の断片に関して——Nyāyavārttikatātparyapariśuddhi に引用されるウダヤナとプラジュニャーカラグプタ—— Nyāyavārttikatātparyapariśuddhi に引用される	「海」に関する比喩について		ai ádhhura- ádahdha- iav ahda- danta- 及び ai addhá aav an azdā・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	Brhadāraṇyaka-Upaniṣad 冒頭部分について	古代インド建築家たちのマンダラ—— maṇḍalipākāra は「円い城壁」か?—— 橋	情報提供のお願い	会則·役員名簿	学会誌編集査読委員会について	研究発表および論文掲載・利用に関する規則	学術大会開催予告	第五十六回学術大会記事	『摧邪輪』ならびに『荘厳記』における引用典籍について 米	理法身・智法身と五法 足	笠置上人貞慶と聖徳太子信仰――『太鏡百錬鈔』所収の三種の資料をめぐって――… 兼	『融通円門章』の書誌学的研究 戸	「仏教文明」から考える初期日本仏教――「仏教文明」概念の導入試論―― 保	普寂の華厳理解 西	近世中期における身延山信仰と信仰圏 望	「のぞきからくり」の地獄絵 根	清沢満之の理性観 田	清沢満之の教団観
崎	藤	浦崩	秦		本							澤	立	子	田	坂	村	月	井	村	Щ
公	龍	宏領	敢 能		哲				:		:	宯				俊		真		晃	
児	興		文 輝		夫			:	:		:		弘			司			浄	徳	嗣
_		:			:		:		:	:		:	:	:	:	:	:	:		::	114 4
····· 	: 三 四	:	: 三三九		: == =	: = 0 = 1	:	: <u></u>	: 完	:二九四	:云	: 三 六 0	: 三芙	三三三	: <u></u>	: 킂	: 葁	:二党	:	: 言	:

83 82 81 80 79	78 77 76	75 74 73 72	71 70 69 68	67 66 65 64 63 62
『三身讃』について			ラトナムニ・ヴァジュラーチャールヤがラサで書写したネワール仏教写本手足網縵相の意味――ブッダゴーサ註釈と北伝資料の相違――『婆沙論』における無分別のとらえ方について	最初の仏語「諸々の法が明らかになる pātubhavanti dhammā」考
津平本村 大	北 靜 周			
田岡村西 観	野新素素	• •		上野野岡辺谷
明 龍 耐 弘 慈	太爷采			真善章 定
•				完文潔聡悟彦
: : : : : : : : : : : : : : : : : : :	: : : : : : : : : : : : : : : : : : :		· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·	· · · · · · · · · · · · · · · · · · ·

	98	97	96	95	94	93	92	91	90	89	88	87	86		85		84
〈如来蔵への信解〉をめぐって 公	スピリチュアルケアの仏教的理解への一考察	日蓮の真蹟――その解読をめぐって――	日本浄土宗諸師の元曉引用章疏にみられる若干の問題点 福	高句麗における仏塔の受容と展開について――文化的背景を中心に―― 今	伽範達磨訳本『千手経』に見られる思想 全	高麗・懶翁恵勤禅師の念佛禅について 韓	『天台四教儀』における法華三昧の考察――三昧と懺悔を中心として―― 金	『梵網経』における「自誓受戒」について 红	『釈摩訶衍論』に説かれる六無明の真意 阜	中国仏教の斎――斎講をめぐって―― 王	ジャムヤン・シェーパのチベット仏教史年表 冊	有顕現派 sNan bcas pa/ 無顕現派 sNan med pa 小	ダルマターシーラ考	—— Eeadagga vagga における「是第一弟子」を中心として—— … Chaowarithreonglith	Ainguttara Nikāya にみられる出家者と在家者の役割	『倶舎論』における経量部説と関連して	『般若灯論』第15章における清弁の言説諦理解
谷				ΔZ	金									ngli			
;x <del>x</del>			士	<u>_+t-</u> -	ىدار.	世光(	男(	جلي		翠	ᄪ	林	田	th Bu		本	
洋				春		(泰植	(編昭	京	大	翠	祖	4.9	pr	BUNCHIRD		浩	
Ξ.		博	<b>稔</b>	鎬	星	<b>迪</b>		美 ·	·	玲 ·	秀	守 ·	覺 ·	IIRD		尊	
 套					i						:		:	:		四七	
差	•	五 七	五四	<b></b> 三	<b>誓</b> 〇	五三	五六	五三	吾八	五品	四九七	四九二	<b>贸</b>	四七七		四上三	